



多摩市立瓜生小学校

瓜生小だより



令和5年度 第9号
令和6年 1月9日

明けまして おめでとうございます

校長 水野 裕司

今年は、年の始めから石川県を中心に北陸で大きな地震があり、多くの方が亡くなられたり、被災されたりしました。また、羽田空港では、旅客機の着陸時に滑走路で飛行機同士が衝突し炎上するという大きな事故もありました。被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に、亡くなった方々のご冥福をお祈りいたします。また、今朝子供たちの元気に登校する姿を見て、普通に学校生活を送ることができる素晴らしさを改めて感じました。

さて、羽田空港の事故では、旅客機に乗っていた379名全員が無事避難できました。とてもすごいことです。大きな炎が上がる中で、何の訓練もしていない乗客を避難させる。これは、乗務員が、日頃からしっかりと避難訓練をし、その成果を一番大切なところで出すことができたからです。

学校では、毎月1回、避難訓練を行っています。災害等が発生した時に授業をしていた教員は、校庭の集合場所まで児童を引率し、「〇年〇組在籍〇名、欠席〇名、現在〇名、避難完了」と報告します。避難訓練での人数確認は、「命の数」の確認です。迅速な人数確認のために、児童は横をそろえて2列で整列します。クラスで移動したり体育で並んだり、普段の整列がいい加減だと、いざという時の整列も遅くなってしまいます。羽田の事故は、日頃の訓練の大切さを改めて確認する機会と

なりました。

話は変わりますが、今年の箱根駅伝では、青山学院大学が、前評判を覆し圧倒的な強さで優勝しました。その時の解説者が何度も繰り返し強調していたのが、「青山学院大学の選手は明るく陽気なイメージがあるが、大変厳しい練習に、陰で泥臭く地道に取り組んできた。」ということでした。これも、日頃からの積み重ねの重要性を物語っています。

少し話はさかのぼり、12月の職員室でのやり取りです。音楽発表会の直前、5年生に体調不良者が多くなり、当日学級閉鎖となっていました。当日の演奏を楽しみにしていた子供たち、子供たちの晴れ舞台を楽しみにしていた保護者の皆様、何かしてあげられないかと日程と睨めっこ。悶々としていた時、担任と音楽教員が「あの・・・、多摩テレビに連絡を取ってもよいでしょうか・・・。」と私のところにおずおずとやって来ました。私は、「これだ！」と思い「こんないいこと。だれが思いついたの。すごいね。すぐに電話するよ。」と話を進めました。この案を担任に提案してくれた元担任のベテラン教員曰く、「だって。あの子たちは入学式の太鼓の演奏もできなかったから、なんとかしてあげたかったんです。」

今年も、教職員一同、みんなで知恵を出し合って、頑張ります。

野球しようぜ！ Let's enjoy baseball!

メジャーリーガーの大谷翔平選手から寄贈されたグローブが学校に届きました。添えられたメッセージには、「私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。

それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。」とありました。大谷選手からの熱いメッセージを受け取った子供たちには、寒さに負けないで充実した毎日を楽しく過ごしてほしいと願っています。

